

九州豪雨 AMDA派遣

職員3人、佐賀市へ

九州北部で降った記録的な大雨により浸水被害など



アムダ職員（右）と現地に到着した後の確認事項などを話す橋本さん（中央）ら（JR岡山駅で）

が広がっているのを受け、国際医療NGO「AMDA（アムダ）」（本部・岡山市）は29日、現地で必要な支援情報を集めるため職員3人を佐賀市に派遣した。

JR岡山駅から新幹線で出発したのは、岡山市在住の2人で、看護師の橋本千明さん（39）と調整員の山田章博さん（45）。長崎市在住の女性職員（48）と佐賀市で合流し、アムダが災害時の協力協定を結んでいる病院を拠点に、被災者のニーズ調査を4日程度行う。

佐賀市内では、川が氾濫するなどして広範囲に浸水被害が発生しており、犠牲者も出ている。

出発前に岡山駅で報道陣の取材に応じた橋本さんは「昨年の西日本豪雨のように避難生活が長期化する可能性もある。避難所の運営状況や物資の過不足などをしっかりと調べたい」と語った。山田さんは赤磐市職員で、アムダに出向中といひ、「行政経験を生かし、被災者だけでなく、自治体職員が何に困っているかの把握にも努めたい」と話した。